

竹林整備の流れ

里山の衰退や景観の悪化を防ぐために、竹林整備に取り組む15区・竜ヶ坂中山間取組組織。その活動内容を紹介します。



まずは構成員がチェーンソーなどを使って竹を伐採していきます



伐採した竹を粉々にするため粉砕機に入れていきます



大きな音をあげながら、チップ状になった竹が勢よく出てきます



チップ状になった竹はさまざまな活用方法が見込まれています



1年目は雑草抑制のため、チップ状になった竹を農道に敷きました



左／整備前の竹林
竹は繁殖力が強いので、手入れをせずに何年も放置してしまうと、竹が密生して手の付けられない状態になります。放置され荒廃した竹林は、森林の育成や機能保全の障害、景観の悪化などさまざまな問題が発生します。



右／整備後の竹林(全伐採)
適度な密度を保つために竹林を管理することは、景観の悪化、周囲への拡大、生物多様性の低下、土砂災害の危険性などを防ぐことができます。またタケノコ掘りなどの作業がしやすくなり、タケノコや竹材を地域資源として活用することができます。

地域環境の荒廃を防ぐ

県の補助事業である「いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業」を活用し、竹を細かく粉砕する機械を導入。平成30年度には約500本、本年度は約780本の地域内の竹を伐採しました。粉砕したチップ状の竹は、雑草抑制や土壌改良材などさまざまな用途が期待されています。また地域住民からは「明るくなくなって良かった」「見晴らしがよくなくて良かった」「見晴らしが高評価を得ています。組織代表の千葉さんは「まだまだ竜ヶ坂地域には放置された竹林がたくさんある。今後も活動を続け、農地と地域環境の荒廃を防ぎたい」と地域に対する熱い思いを話していました。

Interview



15区・竜ヶ坂中山間取組組織
代表 千葉 忠さん (15区)

安心して生活ができる 地域環境の構築を目指して

地域の高齢化が進むなど地域活力の低下が進行しており、地域の実情に合ったスタイルでどう改善していくかが課題でした。誰の目にも「見てよし、暮らしてよし、そして安心できる」と感じてもらえることが基本と考え、地域の景観や環境整備のため、竹林整備に取り組み始めました。今後もため池の管理や竹林整備などを適切に実施して、生活エリアの環境改善に結びつけ、安心して生活ができる地域の構築と主産業である農業の維持、さらには地域全体の活性化に努めていきます。

またこの取り組みを通じて、高齢者の生活支援の一助としていきたいと考えています。

特集

地域の景観や環境を守る

—15区・竜ヶ坂中山間取組組織の活動—



竹の需要減少や土地所有者の高齢化により、放置された竹林が日本全国で年々増加し、社会問題となっています。長島地区の竜ヶ坂地内も例外ではなく、住宅付近に荒廃した竹林が多数存在しています。しかし昨年度から「15区・竜ヶ坂中山間取組組織」の構成員たちが竹粉砕機を活用して、竹林の適正な維持管理に積極的に取り組んでいます。



荒廃した竹林を全て伐採し、見通しが良くなった竜ヶ坂地内の風景

竜ヶ坂地域の現状

「農地だけでなく、農業用水『ため池』などの維持管理も行き届いていないのが現状です」。15区・竜ヶ坂中山間取組組織代表の千葉忠さんは地域の実情をそう振り返ります。千葉さんが住む長島地区の竜ヶ坂地域では、農業従事者の高齢化が進むだけでなく、若者世代が就労のために地域から離れて暮らすことで、一人暮らしの世帯が増え、日常的な農地などの維持管理が厳しい状態にあります。また集落の中には竹林が多く存在していますが、そのほとんどが手入れされておらず、景観や生態系を崩し、里山の荒廃を招く要因となっています。

地域で取り組むべき課題

この放置竹林を解消するために立ち上がったのが、15区・竜ヶ坂中山間取組組織の構成員たちです。「自分たちの置かれた現状の中で、改善できるものから一つ一つ取り組もう」と決意。荒廃した竹林は地域で取り組むべき課題として、全員が共通認識を持ちました。そして現状の改善に向けて、組織の団塊世代が中心となり、平成30年度から竹林整備の活動を始めました。